

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670101591		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム友結		
所在地	山形市桜田西1丁目13-9		
自己評価作成日	令和 4年 11月 15日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 2月 3日	評価結果決定日	令和 5年 2月 27日

(ユニット名 みずき)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(グループホーム友結)】

コロナ禍ではあるがお客様とコミュニケーションを図り、楽しい生活を送りながら一人おひとりの役割を見つけ過ぎて頂ける様に工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の静かな環境の中でデイサービスを併設し、事業所ではグループホームの特性を活かして一人ひとりの意向を把握し利用者本位の支援をしています。コロナ禍で外出の機会も少なくなり、レクリエーションや季節に合わせた行事などを組み合わせたり趣味や嗜好に応じた活動を通して健康維持に努め、利用者は生活スタイルに合わせたケアによって安心して暮らしています。住み慣れた地域の中でその人らしく暮らすことが出来るように、またその時々々の状況に応じた柔軟な対応によって利用者・家族等からの信頼も厚く、常により良いサービスを提供している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム友結理念をユニット内に掲示し理念を心がけケアを行っている	理念を掲示し、10項目の「行動指針」を各自が携帯して常に確認できるようにし、行動指針の中から毎月1項目を選んで目標として取り組み、評価を行っている。利用者本位のサービスと本人・家族等の絆を大切にしたい支援が信頼関係に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	WEBにて学生等との交流会を行っている	ボランティアの協力と一斉清掃や地域の祭りなど各種行事を通じて地域住民と交流を行っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって活動を自粛している。散歩をしながら挨拶を交わしてもなるべく接触しないように注意し、地域資源を活かして健康を維持できるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて事業所の取り組みや広報誌等を配布し、ブログやインスタグラム等にて活動や取り組みを掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告やインシデント・アクシデント報告を行っている	コロナ禍によって運営推進会議の開催が懸念され、委員に会議資料を直接届けて開催に代えている。口頭で要望や助言をもらって業務に活かし、施設運営の透明性と質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議報告書の提出、施設内重大事故報告書への対策について意見を頂いている。また、運営推進会議のメンバーとして社会福祉協議会の方より協力頂いている。	運営推進会議の報告書を市へ提出し、事業所の実情やケアサービスの取り組みに理解を得ている。法令を遵守し助言や指導をもらいながら課題解決に取り組み、事業所の積極的な姿勢と市担当者の誠実な対応により協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>勉強会を実施し身体拘束について理解し、各職員が日々意識しケアにあたり、お客様により良い生活を送って頂けるように取り組んでいる。また、毎月各ユニット会議で離床センサーについて評価する機会を設けている。</p>	<p>身体拘束等の適正化のための指針に基づいて、定期的に委員会を開催して内容の周知を図り、職員は研修を通して身体拘束の内容と弊害について理解し、不適切なケアがないようにしている。毎月のユニット会議で話し合い、利用者一人ひとりの尊厳を尊重して支援している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内研修で高齢者虐待についての勉強会を実施し、日々のケアに活かし注意を払い防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業所内研修で権利擁護についての勉強会を実施し、職員の理解を深めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や法改定時の変更の際はその都度お客様、ご家族様へ説明を行い同意を得ている</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>お客様アンケート調査を実施しご家族様の要望や意見を頂き、グループホーム会議にて改善策を決め全職員で改善策に取り組んでいる。</p>	<p>アンケート調査の結果、生活の様子を気遣う声が多く、要望等は前向きに受け止めて丁寧に対応している。日常生活の中で利用者の思いを把握し、家族等には生活の様子を伝える際にも意見や要望を尋ね、サービスの質向上に反映させている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会議や定期的な面談を行い意見や提案を聞き運営に反映している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シートや定期的な面談を行い職場環境や条件の整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルや力量にあわせて法人内外の研修に参加する機会を設けている。	「研修予定表」に基づいてケア研修やフォローアップ研修、さらに職域や経験・習熟度に合わせて研修の機会を設け人材育成に努めている。職員は率先して介護福祉士試験などに挑みモチベーションを高めている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者の営業活動や職員を外部研修に参加する機会を設けサービスの質向上に努めている。	コロナ禍で同業者と交流する機会が持てず、オンラインでグループ研修等を通じて他事業所の取り組みを学んでいる。居宅介護事業所や地域包括支援センターなどに「グループホームだより」を届けて情報交換を行い、質向上に繋げている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調を利用前に行い、ご家族様より要望などを伺い安心して生活出来るような関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調を利用前に行い、お客様より要望などを伺い安心して生活出来るような関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に得た情報を基に入居前にカンファレンスを行い支援を見極めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動やレクリエーションを一緒に行い同じ時間を共有し生活している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様についてご家族様と情報共有しました、WEB面会や窓越し面会を行い家族間の絆を大切にしながら支える関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が図れるよう、窓越し面会やWEB面会を利用して交流出来る機会を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段よりお客様同士の関係を把握しお一人おひとりのお客様が中心になれるような場面を作り支え合えるケアに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要時連絡頂けるようお伝えし、ご家族様やご本人様の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用しお客様一人おひとりの希望や意向の把握に努めている。	本人が自分らしく生活出来るように、定期的に「私の願いや支援してほしいこと」などの情報を専用シートを使って把握している。表出が困難な方でも傍に寄り添って丁寧に働きかけ、動作や表情などを観察して思いを把握し、家族等の意向も含めて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調時にご本人様、ご家族様、介護支援専門員等より情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様お一人おひとりの生活パターンやADLを把握し、それぞれの生活に合わせてケアを行うように努めている。		

自己外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人様ご家族様よりご希望等を伺い、アセスメント、カンファレンスを行い介護計画書を作成し課題の評価、分析を行いケアプランを作成し毎月評価している。</p>	<p>居室担当制をとって利用者・家族等と深く関わり、思いや意向をサービス担当者会議に上げ、関係する職員で検討している。利用者の思いを尊重し、その人らしさを大切にして身体機能の維持と元気に生活できるように介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>お客様の日々の活動の様子を記録し、申し送り用紙にて情報共有を行い統一したケアを行い介護計画書見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>主治医や訪問看護師等との情報共有、またWEBでの交流会に参加し安全で豊かな生活が送れる様に支援している。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関との情報共有を行い、体調に変化が見られる時は、御家族様に連絡し受診出来るように支援している。</p>	<p>近くにあるかかりつけ医への受診は職員が同行し、他に必要とする科目を受診する際には家族等の付き添いとしている。利用者の健康状態を書面で医師へ渡して適切に受けられるようにし、受診結果は通院記録簿に記載して全員で把握し押印している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関との医療連携を取り交わし週2回訪問看護師の訪問時にお客様の状態の報告、相談を行い、24時間適切な看護を受けて頂ける体制を取っている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は職員が同行し病院関係者は情報提供を行っており、入院中は御家族、病院関係者と情報を交換し退院時は退院後の管理方法等の情報を頂いている。</p>		

自己外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重症化、終末期ケアの説明を行いました、担当会議等でご家族様の意向等の情報を主治医や訪問看護師へ提供し方針の共有を行っている。	看取り介護に関する指針を策定しているが、入居時に利用者・家族等には看護師の配置が無く医療行為ができないため看取りはできないことを説明している。重度化し摂食できない状態になった場合は、主治医から家族等へ説明してもらい職員からも丁寧な対応で介護老人保健施設や他の施設への移行を勧め、本人と家族等が安心と納得が得られるようにしている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法や緊急時対応の勉強会に参加し適切な対応が出来るようにしている。また、マニュアルを文書化し対応出来るようにしている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と災害協定を結び、また年2回避難誘導訓練と緊急連絡網訓練を行いお客様を安全かつスムーズに誘導出来る方法を学んでいる。施設内にハザードマップを掲示し確認出来るようにしている。	避難訓練は日中と夜間を想定して年2回実施し、他に机上訓練や召集訓練も行っている。地域の町内会長を通して災害時の協力要請をしており、避難訓練の際には見守りなどの協力をもらっている。浸水区域には入っていないが、水害時を想定して二階への垂直避難などの対策も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての勉強会を行い、各職員がお客様一人おひとりに寄り添い人格を尊重した言葉遣いや対応を行っている。	利用者がこれまでに歩んできた生活歴や生活リズムなどに合わせながら、思いや意向を尊重し支援をしている。居室などへの出入りする際には、ノックや声がけをして失礼のない対応でプライバシーを損ねないようにしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いや希望をお伺いし、自己決定出来る様日々の生活の中で支援している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースに合わせケアを行い、ご本人様の希望にそい個々の生活スタイルを大切にしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の起床時はできるだけお客様に選んで頂いた衣服を着て頂けるようにし、また、季節の衣替えを一緒に行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月お客様の好みや要望を伺い、食事を提供し、毎日家事活動も一緒に行っている。	季節に合わせて笹巻などを作って楽しんだり、一人ひとりの食べたいものを把握し、それぞれの誕生日などには好きなものを提供して喜んでもらっている。食事前には軽い体操や口腔体操などを行って、飲み込み易くし誤嚥のないように注意しながら支援している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食お一人おひとりの食事と水分摂取量を把握し、栄養バランスや水分量が足りない時は補助飲料等を提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内についての勉強会を行い、毎食後お客様お一人おひとりに合わせた口腔ケアを行っている。また、訪問歯科、衛生士より口腔内を見て頂き職員への指導を行う機会を設けている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声がけ、誘導を行っている。お客様の状態に合わせてセリハビリパンツや尿取りパッドの使用を検討し安易に選択しないように支援している。	それぞれの排泄表に合わせた誘導や状況を見ながら声をかけ、自立排泄に繋がるよう支援している。失敗した時などは周囲に分からないように声がけを工夫し羞恥心に配慮して誘導を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に便秘改善を促す効果のある飲料の提供を行っている。また、毎日体操を行い便秘改善に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりに声をかけ希望時間を伺い、できるだけ希望に沿って入浴して頂けるように湯温等を変え支援している。	入浴は週3回を目標にしているが利用者の希望に合わせ、体調管理にも注意し無理のないようにしている。脱衣室や浴室の戸を閉めたり、衣服を脱いだ時はタオルを掛けて羞恥心にも配慮している。コミュニケーションを大事にして、若い時の話などに会話がはずみ楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活習慣に合わせ休養の時間を設けており、安心して寝つけるよう声掛けや状態確認を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬局、訪問看護師と連携、情報共有を行い症状の変化確認等に努め、服薬マニュアルに沿った管理と服薬介助を行っている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に得た情報を基に、日々の生活の中でお一人おひとりに合わせた役割や楽しみごとを支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行い散歩等外に出る機会を設けている。また、御家族に受診時の外出のご協力を頂いている。	中庭に出てリフレッシュしたり、近くの公園や近所まで出かけて地域の方と挨拶を交わしている。感染防止に努め紅葉狩りなどを通して、季節の移り変わりなどを感じ取ってもらえるように支援をしている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側が行っているが、お客様の希望に応じて必要な物等支援できるようにしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	WEB面会、窓越し面会を行いました、年賀状や暑中見舞いをお送りし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日定時での掃除、消毒を行い清潔を保つように努め、また各トイレに消臭剤を設置し配慮している。毎月装飾物をお客様と一緒に作成する等工夫している。	皆が集まる食堂・居間では、利用者が楽しめるように職員が入って声かけをして皆との会話に繋がるように配慮している。加湿器を設置したり、窓を開けて換気し感染症対策を行っている。1階や2階からは中庭と山々が眺められ、風景や季節を感じられる造りにしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様それぞれの居室で自分の時間を過ごしている。また、食席やソファーでお客様同士で楽しく過ごせている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御本人様の使い慣れた家具や小物等じさんされ配置などはお客様御家族様と相談し配置している。	利用者・家族等は自宅の延長上に近づけたいと、馴染みのタンスやテーブル・椅子等を持ち込み自分好みに設えている。入居まもない利用者には慣れるまで一人にしないように職員が付き添って安心して過ごせるようにしている。毎朝できる方には職員と一緒にモップがけなどをして清潔を保っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員同士情報共有しお客様お一人おひとりの出来る事分かる事を見つけ、安全に自立した生活が送れるような環境作りをしている。			